**台湾工作機械情報**

**2022年10月15日**

* **21世紀台米貿易イニシアティブが発足、工作機械産業の米国市場進出を支援**

行政院は6月1日の「台米21世紀貿易構想」記者会見で、米国との貿易提携に大きな進展があったことを発表した。工作機械工業同業同協会の許文憲会長は、台湾と米国の友好関係の構築に向けた政府の長年の努力に謝意を表明し次のように述べた。「米国は台湾の工作機械産業にとって重要な貿易市場だ。当協会は長年にわたり、台米の相互貿易促進に関する問題において、台湾および米国当局と交流を深め、このような大きな成果が得られたことを本当に嬉しく思う。」

許文憲理事長はまた次のように語った。「今回、政府が打ち出した「台米21世紀貿易構想」の内容に関して、これらの交渉事項のうち本会が長年関心を寄せてきた11件の課題、例えば「貿易円滑化」「デジタルトレード」「標準化」などを盛り込むことができ喜んでいる。特に「貿易円滑化」と「デジタル貿易」は、製品通関の障壁を取り除き、通関効率を高め、海外との取引における通関コストを削減、商品の迅速な市場参入を促進するために、業界の発展に貢献するだろう。」

当協会は、両者の交渉が公平な競争環境を作り出し、台湾と米国の産業界がこのイニシアティブを利用して、両国の経済貿易関係をさらに深め、共通の価値を推進、共通の課題とチャンスに取り組むことを支持し期待している。

台湾工作機械業界は現在、一般環境において様々な困難に直面し、その運営はさらに困難になっているが、幸いなことに、待望の台米通商協議がその光明を見出すことができた。台米21世紀貿易構想は、国内工作機械メーカーにとって米国市場進出を後押しとなる。。この取り組みが、台湾と諸外国との貿易協力協定の締結にも更に良い効果をもたらし、台湾の国際外交に新たな高みをもたらすことを期待したい。

（資料出典：工作機械とパーツ雜誌，2022，NO.142 頁76-78）

* **SIMTOS 2022(19回韓国国際工作機械見本市,ソウル)コロナ禍後の再出發**

韓国は台湾の工作機械輸出国として第13位を維持

SIMTOS は2年に1度、偶数年に開催されるが、今回韓国工作機械工業会（KOMMA）が主催し、29カ国から854社が出展した。

今回の主催者は、「Back to the Basics（原点回帰）」をテーマに、専門展示会としての従来の機能を強調、SIMTOSが疫病で失われた業界の絆を取り戻し、国内および輸出市場を活性化、最新の製造技術を展示することで将来のトレンドを披露する。

SIMTOSの展示は、製品の性質によって会場が分けられた。ブースは「切削加工・成形」「切削加工・溶接」「プレス・成形技術」「部品・材料・サーボ制御」「オートメーション・デジタル製造」「工作機械・測定器」「3Dプリンタ・積層造形」に分けられた。 これらの消費者向け製品専門館を通じて、来場者はより直感的で包括的な観覧体験ができるようになる。

台湾からは工作機械・機械部品協会を通じて計5社が、CNCマシニングセンター、歯車研削盤、CNCロータリーテーブル、ボールねじ、リニアスライド、精密バイス、タッピングマシンなどを出展した。

財政部税関総署によると、2021年の台湾工作機械輸出額は韓国が13位で、4700万米ドル超となった。うち最大の輸出製品はマシニングセンタで、輸出額は約1900万米ドル、次いで研削盤で661万米ドル、3位はプレーニング、インサート、ドローイング、ギアリングマシンで517万米ドルであった。

しかし、韓国は現地の習慣や風習から海外製品をあまり受け入れず、開拓や投資に時間がかかるため、SIMTOSは海外企業の韓国市場進出の足がかりとして絶

好のチャンスとなる。

（資料出典：工作機械とパーツ雜誌，2022，NO.142 頁80-81）

* **アジア・インダストリー4.0＆スマートマニュファクチャリングシリーズ展示会**

「Intelligent Asiaアジア・インダストリー4.0＆スマートマニュファクチャリングシリーズ展」が台北南港展示場で開かれた。「スマートマニュファクチャリング生態圏の連携」をテーマに、オートメーション、ロボット、3Dプリンター、スマートモールド、ロジスティクスとモノのインターネット、コールドチェーン技術、レーザーアプリケーション、流体コンポーネント、機械要素など9つのテーマ分野に分かれる。1200社以上の出展者が一堂に会する展示会で、製造サイドからアプリケーションサイドまでのハードウェア、ソフトウェア、統合システムを含み、プロセスの改善や製品の付加価値を高めるアップグレード戦略を提供する。

昨年に引き続き、オートメーションショーとロボットショーには、中国から主要部品のトップブランドとオートメーションソリューションのサプライヤーが集結した。ドイツ、日本、スイスをはじめとする海外の有名企業から、産業用コンピュータ、産業用制御システム、キーコンポーネント、ロボットアーム、オートメーションソフトウェア、先端プラント機器、計測・検査機器、クラウド型ビッグデータ、AIアプリケーション、無人搬送装置、加工機などが展示、製造業における人とロボットの共同、システムインテグレーション、バーチャル・リアル・インテグレーションのトレンドと市場の需要を十分に表現した。

「サービス型ロボットゾーン」では別の見どころがあった。上場企業やAMRの代表的なプレイヤーがコロナ禍時代の新たな商機を見越し遠隔操作や無人化という新基準に対応した最新のアプリケションを展示した。

モジュール展と3Dプリンター展は、製品開発段階のプロセス関連技術に焦点を当て、国内の業界関係者がOEMからODMの役割に転換することを支援する。出展項目には工作機械加工、検査、設計技術に加え、積層板製造装置、消耗品、モデリングソフトウェア、スキャニング、リソーシングサービスなど含まれる。モジュール開発力が製品化の鍵であり、業界ではデジタル分岐を作り、T0量産を実現するためのソフトウェアシミュレーションを推進、市場投入までの時間を大幅に短縮し、カスタマイズや多様化という課題に積極的に取り組んでいる。

AIやIoTは物流の運用形態も変えつつある。今年のロボット＆IoTショーとコールドチェーン技術展では、ボックス収納ロボット、自律型移動ロボット、無人スタッカー、四方シャトル収納システム、自然冷媒冷凍機、インテリジェント緩衝器、インテリジェント三温度層コンパートメント、インテリジェント輸送システム、温冷スマートキャビネット、三輪電気機関車、インテリジェント包装機器、高速自動仕分け機などを中心に紹介し、技術によって人手に頼らず、保管スペースや仕分け効率など事業者が抱えるペインを解決、固定費低減の実現を披露した。

今年で10回目を迎えたレーザーは、光学、金属、ハードウェアの業界団体やメーカーの参加に加え、欧米や日本の海外メーカーからも継続的に支援を受けることで、光の製造技術が産業界で果たす重要な役割を実感できる展示会となった。

二年に一度開催される流動コンポーネント展では、オートメーション機器用の高品質な精密部品が展示され、企業の生産能力の確固たる基盤を築いている。「スマートコントローラーとグリーンヒューチャー」をテーマに、専門家や学識経験者を招き、流体力学、風力発電、ゼロカーボンエミッションなどの技術開発や今後のビジネスチャンスについて議論するフォーラムと技術セミナーを開催した。

（資料出典：工作機械とパーツ雜誌，2022，NO.144 頁78-79）

* **2022年台湾工作機械上半期の生産・販売レビューと年間動向**

この数年、各国はコロナ禍に対応するために金融緩和が行われ、景気を回復させたが、ホットマネーの流入が続き、世界的なインフレを引き起こしている。今年は突如のロシア・ウクライナ戦で、原材料が驚くほど高騰したことでこの超インフレの嵐を引き起こしたのは間違いない。各国の中央銀行はインフレ率上昇を抑制するために金利を引き上げ、経済を安定させることができたが、これは投資マインドにも影響を及ぼした。米国製造技術協会（AMT）が発表した受注データによれば、5月の工作機械輸出額は4億4,100万米ドルで、前月比13.7％減となった。日本工作機械工業会（JMTBA）が発表した6月の工作機械受注速報によると、輸出用工作機械は約960億円となり、前月比7.5％減となった。インフレが顕著になり、ロシア・ウクライナ戦の行き先も予測できない中、原材料価格の変動は機器メーカーの収益性を低下させるだけでなく、投資家の意思決定にも慎重な姿勢を強めている。しかし、コロナ禍中のようなサプライチェーン混乱の再発を防ぐため、国際的な第二次サプライチェーンは現在も継続的に展開されている。

2022年1月から6月までの台湾の工作機械輸出総額は14.5億米ドルで、前年比14％増となった。 金属切削工具の輸出は16.4％増の12億2200万米ドル、金属成形工具の輸出は2.5％増の2億2800万米ドルであった。前月との比較では、2022年6月の工作機械輸出額は2022年5月と比較して7.7％増加し、金属切削機の輸出額は6.4％増加、金属成形機の輸出額は15.1％増加した。

2022年1月から6月までの金属加工機の主な輸出品目は、順にマシニングセンタ、輸出額は前年同期比20.6％増の5億600万米ドル、2位は旋盤で、輸出額は前年同期比18.1％増の約3億1700万米ドルだった。金属成形機の輸出は約1億8,000万米ドルで、前年同期比0.2％増。

輸出国（地域）別では、台湾の中国大陸（香港を含む）への輸出が3億8900万ドルで前年同期比14.2％減、輸出総額の26.9％シェア、2位の米国は約2億1100万ドルで前年同期比46.7％増、輸出総額の14.6％、3位のトルコは1億1500万ドルで前年同期比8.5％増となり輸出総額に占める割合は7.9％となった。

米国連邦準備制度理事会（FRB）がインフレ抑制のためにタカ派的な利上げを行ったため、市場の投資意欲が減退、加えてコロナ禍の影響が続く中、ロシア・ウクライナ戦や中国の封じ込め政策により、世界のサプライチェーンは混沌とした状態が続いている。日本工作機械工業会（JMTBA）によると、2022年7月の日本の工作機械受注額（速報値）は1424億円で、前年同月比5.5％増となった。7月の輸出売上高は904億円、前年同月比0.9％の微増。 前月までの急激な伸びに比べ日本の工作機械の受注は6月以降、徐々に減速している。

（資料出典：工作機械とパーツ雜誌，2022，NO.144 頁24-29）

（資料出典：JMTBA整理）

* **最近のニュース**

**台湾経済は世界標準を上回る　経済部も産業発展に悲観的ではない**

【2022-07-07 中央社】

経済部が本日プレスリリースを発表した。輸出受注統計によると、2022年5月の輸出受注は前年同月比で過去最高となり、年間増加率6%となる。2022年5月の工業生産指数から見れば，製造業5月の年率は5.14％の増加、1月から5月までの累積指数も6.31％の伸びとなり、台湾の製造業全体として依然好調であることが示された。

輸出に関しては、経済部が財政部の統計を引用し次のように発表した。「台湾の輸出は今年5月に420億8000万米ドルに達し、5月の月としては過去最高となった。輸出の年間成長率は12.5%、輸出は23カ月連続で黒字となった。」

経済部は最後に行政院会計局の経済成長予測を引用し、今年台湾のGDP成長率が3.91%になると発表した。近年各国の疫病、ロシア・ウクライナ戦の継続、国際的な原材料価格の高騰などの影響はあるものの、台湾産業は国際競争力を具備し、国際情勢の課題に対応するための施策も講じている。

この他、今年上半期、各業界の生産及び輸出状況は良好で、経済部も台湾産業の発展について悲観しておらず、各界は台湾産業への信頼があることを強調した。

**台湾上半期の工作機械輸出は14％増、米国向けは46.8％増**

【2022-07-11 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業協会は、6月の工作機械輸出額が前月比7.7％増、うち、米国輸出が同46.8％増となったと発表した。

その中でも、切削工作機械の輸出額は5月に比べ6.5％増加し、6月金属成形工作機械の輸出額は5月に比べ15.1％増加した。

上半期の工作機械輸出金額は去年同期比14％増、うち金属切削工作機械製品の輸出額は前年同期比16.4％増、金属成形工作機械の輸出額は前年同期比2.5％増となった。

上半期の輸出国トップ3は中国本土（香港を含む）、米国、トルコで、上半期の中国本土（香港を含む）の累積輸出額は前年同期比14.2％減、輸出市場全体の約26.8％を占めた。

米国からの輸出は前年同期比46.8％増で、輸出市場の約14.6％を占めた。 トルコの輸出は前年同期比8.5％増で、全体の約7.9％を占めた。

台湾工作機械とパーツ工業協会によると、各国の中央銀行がインフレ率上昇を抑制するために金利を引き上げたため、経済の安定化が期待されるものの、市場の投資意欲に影響を与えているという。また、ロシア・ウクライナ戦争が膠着状態にあり、原材料価格の変動が機械・装置の生産コストに深刻な影響を与え、装置メーカーの収益性を低下させている。インフレは顕著になってきており、物価の乗数として作用し、製造業のサプライチェーンにも悪影響を及ぼす可能性がある。

**工作機械業界を救助！教育省と経済省が25.5億ドルを投じて設備更新へ**

【2022-07-11 経済日報】

2020年初頭の世界的な新型肺炎流行により、工作機械産業の景気も急激に悪化した。そこで2020年から文部科学省と経済部は共同で「工作機械産業人材育成・活性化プロジェクト」を推進している。国内の工作機械産業が必要とする技術者の育成と、国内の工作機械産業の発展を活性化させるという2つの効果を得るために、高等教育機関や工業高校が質の高い国産工作機械機器を取得し、教育機器リソースをアップグレードすることを支援する。

教育部は、流行中の工作機械・機械産業の勢いを維持するために、経済部との協力を拡大し、さらに25億5,200万ドルを投資すると発表した。また、127の高等教育機関と工業高等学校に対し教育に必要な基本的な実習機器とハイエンドの専門機器の購入費を補助し、学生が学校ですぐに産業界の実務に触れられるようにする。私たちは、国の産業のニーズに合わせて、より多くの専門的・技術的な人材をスマート機械製造業に育成し、国のスマート機械産業の国際競争力を加速させたいと考えている。

**6月の機械輸出額、2番目の高水準に**

【2022-07-12 経済日報】

台湾機械工業会は昨日、今年6月の機械設備輸出額が前月比6.9％増、前年同月比16.5％増となり、今年3月に次いで過去最高となったことを発表した。新台湾ドル換算では昨年比24.1％増加になる。

今年上半期の機械設備輸出額は前年同期比12.7％増、新台湾ドル換算では14.4％増となった。

台湾機械工業会会長の魏燦文氏は、5月の機械輸出は1.1％減少したが、6月の輸出は昨年同期に比べて16.5％巻き返した。ロシア・ウクライナ戦による高いインフレ、保守的な経済情勢やその他の要因で、グローバル的にも機械設備の必要性がまだ高いことがわかる。年間の機械輸出で約15％の成長を維持すると予想できると指摘している。

特筆すべきは、台湾の対米輸出が今年に入って大きく伸び、上半期の累計で42.3％増となり、機械設備輸出の第1位となり、中国本土は9.2％減で第2位となったことだ。

上半期の機械輸出のトップ3は、電子機器（14.2％、前年同期比6.6％増）、検測装置（13.1％、同9.2％増）、工作機械（8.2％、同14.0％増）となった。

**工作機械、下半期に期待　トレンドを保持**

【2022-07-17 経済日報】

世界的なインフレが顕著になり、ロシア・ウクライナ戦が膠着状態にある中、台湾工作機械とパーツ工業協会の許文憲会長は下半期の見通しについて保守的になっている。「メーカーからの受注に弱さが見られるため、今年の工作機械輸出は昨年のレベルをなんとか維持したい」と述べた。

年初、台湾工作機械とパーツ協会は、今年台湾の工作機械輸出は20％～30％増加すると予想していたが、第2シーズンに入ってからメーカーからの受注が20～30％減少し、第3、第4シーズンの出荷実績にも影響が出そうだ。 幸いなことに、新台湾ドルのレート下降が功を奏して、メーカーの営業外収益は抑えられている。

統計によると、台湾6月の工作機械輸出額は前月比7.7％増の2億6,700万米ドル、上半期は前年同期比19％増の14億5,000万米ドルと、堅調に推移していることが明らかになった。

機械工業会の魏燦文会長は、米国の金利上昇、新興国における経済成長の鈍化の可能性、世界的なインフレなどにより、台湾の機械・工作機械輸出はこれまで好調を維持してきたものの、今後の輸出にさらなる不確実性をもたらしていると指摘した。

**トップ４産業　7月輸出が単月2番目の高水準を記録**

**財務省は8は過去最高になると予測**

【2022-08-08 中央社】

財務省が本日発表した7月の輸出額は14.2％増となり、約10年ぶりに長期間のプラス成長となった。財政部統計局長の蔡美菜氏は、「シーズンごとの予測によると、月の輸出の年間成長率は8％から12％の間に落ちると見られ、単月の輸出額としては史上最高、かつ26ヶ月連続の黒字、年間で2番目に長いプラス成長の記録に並んだ」と語る。

また、財務省は本日、7月の輸入額が21ヶ月連続黒字、金額は年率19.4％増となり単月で第３番目を記録したと発表した。 1月から7月までの累計では、前年同期比18.4％の増加となった。

7月の輸出実績は「再び好調」となったが、その要因は大きく4つに分けられると蔡美娜氏は分析する。第一に、技術革新の機会、デジタル変換の需要が継続し、各種端末機器のチップ含有量が一般的に増加し、台湾の半導体産業に活力を注入したことによる。第二に、ピークシーズン効果が強まったことだ。さらに輸出価格が上昇し、年間約6％の上昇となった。第四に、中国の封鎖が解除され、生産が再開されたことで、谷底から回復したことにある。

**7月の機械輸出が1000億台湾ドルを突破、年間成長率は10％〜15％の見込み**

【2022-08-09 中央社】

台湾機械工業協会は本日、7月の機械輸出額が前年同月比20.8％増となったと発表した。新台湾ドルの為替レートが下落したため、7月の新台湾ドル建て輸出額も過去最高となり、台湾の機械輸出額が単月で1000億台湾ドルを超えるのは初めてのことだ。

これは、地政学的な紛争や世界的なインフレ、経済の先行き不安などの影響にもかかわらず、世界的なCOVID-19流行の減速のもと、各国の機械設備に対する当面の需要があり、台湾の機械輸出が順調に伸びていることを示していると同協会は指摘している。

今年1〜7月の台湾の機械輸出額は、累計で前年同期比13.9％増、新台湾ドル換算では前年同期比16.6％増となった。今年の機械輸出を展望して協会は、多くの不利な国際経済要因の影響にもかかわらず、機械輸出の全体的な金額は依然としてプラス成長する見込みであり、通年でも10％から15％の成長が見込まれると述べた。

**「傷口に塩な円安進行」　台湾の工作機械業界、2つの理由で大打撃**

**業界関係者：第4シーズンはさらに悪化へ**

【2022-08-09 連合新聞網】

2022年以降、急激な円安が進行し、7月14日には1米ドル＝138.9円を割り、1998年10月以来の円安を記録した。継続的な円安は、台湾の工作機械産業に悪影響を及ぼし、国際市場における台湾の工作機械パーツの価格競争力を低下させるだけでなく、業者はコロナ禍後のサプライチェーンの再編を懸念、台湾メーカーが危機に直面する可能性がある。

台湾工作機械とパーツ工業協会の許文憲会長は、受注の落ち込みは為替によるもので、その理由は2つあるという。まずアジアでは台湾の工作機械・部品の最大の競争相手は日本と韓国であり、円安は日本の輸出に有利に働き、日本製工作機械の価格競争力を高めることになる。

一方、台湾の日本向け工作機械部品の約9割は日本円建てであり、ニュー台湾ドル以上の円安は日本からの輸入品に不利になるため、この現象が続くと台湾のメーカーは受注を失うリスクに直面することになる。

**工作機械前７ヶ月の輸出額は16％増、米国は48.5％の大幅成長**

【2022-08-09 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業協会は、7月の工作機械輸出額が6月比で6.6％、前年同期比で27.8％増加したと発表した。今年1～7月の工作機械輸出額の累計は、前年同期の14億9500万米ドルに対して16％増となった。

同協会によると、今年1〜7月の輸出市場について、輸出額上位10カ国は、中国（香港を含む）、米国、トルコ、イタリア、ベトナム、オランダ、インド、タイ、ドイツ、ロシアとなっているという。

そのなかで中国（香港を含む）市場は、全輸出市場の27.1％シェア。輸出金額は前年同期比11.1％減少した。2位の米国は輸出市場の14.2％を占め、輸出額も前年同期比48.5％増となった。

第3位のトルコは輸出全体の8.5％を占め、輸出額は前年同期比17.9％増、第4位のイタリアは1〜7月で113.4％増となった。

同協会は、インフレ抑制のための米国連邦準備制度理事会のタカ派的な利上げが市場の投資意欲を減退させているほか、COVID-19の流行が続いていること、ロシア・ウクライナ戦、中国の封じ込め政策などが、世界のサプライチェーンを混沌としている要因だと指摘している。

**沈榮津氏「台湾工作機械産業は在庫高と信頼性の課題が」**

【2022-08-11 中央社】

行政院副院長沈榮津氏が今日次のように発表した。「国際的な疫病が緩和され、消費財や工業製品の世界的な需要が高まった結果、台湾の工作機械の輸出額は2021年までに30％近く、2020年から2021年にかけては34.2％増加し、政府と協会の共同努力による顕著な成果が得られると予想されている。」

しかしながら、沈榮津氏は、昨年の工作機械の全体的な性能は良かったものの、メーカーはまだ次のような問題に直面していると述べた。まず、部品の多様性と複雑性、そして高い在庫、例えば、台湾メーカーの平均在庫は50％に達し、日本は23％のみで、競争力の差ができている。

第二に、台湾の新機種は品質や精度は欧米や日本とあまりかわらないが、製品の信頼性はまだまだ向上させる必要があるということだ。たとえば日本の工作機械は連続無故障生産時間が約4000から5000時間、ドイツは5500から6000時間なのだ。

沈榮津氏はSEMIの成功事例を参考に、政府と協会が協力して部品の品質管理に関する17の業界標準を策定し、業界標準を発表するデジタル管理プラットフォームを立ち上げ、業界の参加を得てはどうかと提案した。

**8月のPMIとNMIはともに低下、製造業は今後6ヶ月間について概して悲観的な見方**【2022-09-01 経済日報】

台湾経済研究院が本日発表した8月の台湾製造業購買担当者指数（PMI）は、7月に24カ月続いた拡大が一転して縮小となる季節調整を経て、0.6低下して47.2と、2020年7月以降最も速いペースで縮小を続けている。

経済研究所の金漢健研究員によると、8月のPMIは改善されないどころか、国際環境の影響で悪化したとのこと。欧州ではインフレが続いており、中国本土では電力不足、疫病対策、不動産不況など景気の悪化に拍車がかかり、製造業は厳しい状況、製造業に関連する耐久財は、工作機械備品と自動車にかかっている。

中経院院長張傳章部長によると、PMIの5つの構成指標のうち、新規受注と生産は縮小、人員採用も縮小に転じ、サプライヤーの納期が低下、在庫は拡張している。

製造業では、今後6ヵ月の見通しが4ヵ月連続で縮小し、指数は1.8減の28.3となり、2020年5月以降で最も早い縮小率となった。台湾の8月の非製造業部門指数（NMI）は、2ヵ月連続で拡大したが、指数は2.9低下し53.8となった。

**急激な円安 工作機械工業会「受注に影響」**

【2022-09-07経済日報】

日本円が対米ドルで大幅下落、24年ぶりの安値を記録した。 台湾工作機械アーツ工業協会の許文憲会長は、「現在の工作機械メーカーの受注は平均して30〜40％減少、これに円安・ウォン高が加わり、台湾の工作機械輸出はますます苦境に立たされること間違いない」と語る。

台湾機械工業会の魏燦文会長も、「最近、会員メーカーから『顧客が日本メーカーの機器を買うようになった！』という報告が多くなってきた」と語った。 機械設備だけが影響を受けるわけではないので、政府は円安の深刻さを直視すべきであり、台湾の輸出を救うためにNTDの為替レートを32元まで下げるべきだと強く提案した。

台湾工作機械パーツ工業協会がこのほど開催した理事会・監事会では、円安・ウォン高が進む中、参加者全員が「青白い」表情を浮かべた。 最近の中国経済の悪化で、日本の旋盤・マシニングセンターメーカーも値下げして競争に参加し、1台あたり2万人民元を切ったというメーカーもあると指摘した。

**1〜8月の工作機械輸出は前年同期比13.8％増、米国向けは49％増**

【2022-09-08 中央社】

台湾工作機械工業協会が本日発表した8月の工作機械輸出速報は、7月比で7.3％減、前年同月比では1.1％増と小幅な増加となった。

このうち、金属切削工具の輸出額は7月に比べ10.7％減少、金属成形工具の輸出額は7月に比べ14.1％増加。

1〜8月工作機械の累積輸出額は前年同期比13.8％増で、そのうち金属切削工具製品の輸出額は同15.9％増、金属成形工具製品の輸出額は同3.8％増となった。

輸出国トップ3は中国本土（香港を含む）、米国、トルコ、中国本土（香港を含む）の1〜8月累計輸出額は前年同期比13.8％減で、輸出市場全体の約26.6％を占めた。

米国からの輸出は前年同期比49.7％増、輸出市場の約14.4％シェア。 トルコの輸出は前年同期比8.8％増、全体の約8.4％。

台湾工作機械とパーツ工業同業協会は、「世界経済の混乱と主要国の金融政策が世界経済に影響を及ぼし、米国によるハイテク半導体製造装置の管制が、世界の技術開発とサプライチェーンの対応力に再び試練を与えている」と語った。

工業協会は「また、最近の円安もまた経済上の大きな出来事となっている。日本が金融緩和政策に固執しているため円安が続き、近隣諸国の輸出競争力に影響を与えている。」とも述べた。

**工作機械の受注冷え込み、市場に圧力**

【2022-09-11 経済日報】

米国の利上げ政策は変わらず、ロシア・ウクライナ戦も収まる気配がない。 また、日本円と韓国ウォンの為替レートは大きく下落し、下半期の新規受注は上期ほど好調ではない。

台湾機械工業会の魏燦文会長は、世界経済の低迷により台湾の機械設備の輸出が8月減少し、輸出額はわずか29億800万ドル、前月比14.0％減、前年同月比2.0％減になったと指摘した。

魏燦文氏は、「最近、ニュー台湾ドルの下落が続いているが、日本や韓国の通貨の下落がニュー台湾ドルよりも大きく、輸出受注に影響を与えている」と指摘した。

米国の利上げ政策やロシア・ウクライナ戦が収まる気配がないため、台湾の機械・工作機械輸出はさらに大きな圧力と課題に直面することになると指摘した。

**台湾工作機械とパーツ工業協会の新世代リーダーが米国市場で奮闘中**

【2022-09-13経済日報】

世界第2位の工作機械パーツ展示会である「国際製造技術展（IMTS）」が米国シカゴで開催された。 台湾工作機械パーツ工業協会の黄建中事務総長によると、今年のIMTSには60社以上の台湾工作機械パーツメーカーが参加し、デジタル製造技術や省エネ傾向に重点をおいて、デジタルシステムによるハイエンドモデルを発表した。

コロナ禍に伴いデジタル変革を加速させたいという企業の要望に応え、IMTSショーでは「デジタル技術」に焦点を当て、多機能マシニングセンター、産業用ロボット、工業ロボット、デジタルツインソリューション、製造ソフトウェア、コントローラー、ラミネート加工、品質管理・検査など9つのテーマで展示が行われた。

台湾の工作機械製品をアピールするため、台湾工作機械パーツ工業協会はIMTS 北館にサービスブースを設置し、来場者の質問に答えた。 また、ブースにはQRコードを用意し、バイヤーが台湾の出展者のブースを素早く見つけられるようにした。

今回の展示から、デジタル技術の発展が必然的な国際的トレンドであることがわかる。 デジタル技術ソリューションによって競争力を得ることで、独自のエコロジーチェーンを持つさまざまな地域市場のニーズに合わせて、より速く、より柔軟でカスタマイズ化した製造サービスを提供し、新しい成長の機会を創出することができる。